

縁	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和5年 2月 6日 第 54 号 校長 大坂 崇		教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
			社会性の学び	知的な学び	心と体の学び
			自他の尊重 地域貢献	主体的な学び 学習の定着	心身の健康

「問い」の力（１）

メタ認知 と 「問い」

1 メタ認知

自分の認知の仕方を認知すること（自分の認知を客観的に俯瞰する）

⇒ メタ認知能力の向上 = 自分を冷静に認識 = 問題解決能力や目標達成能力が向上

⇒ 「授業」「行事」を指導する教員の意識として重要

2 メタ認知を補填するもの = 「問い」

メタ認知は「問い」から始まる（自分で自分に問う、他者から問われる）

⇒ 教員の「問い」が、生徒のメタ認知を高めるのに重要

3 教員自身が「メタ認知」を高める

メタ認知の高い教員は、生徒へのメタ認知を高める「問い」ができる

教員自らが「メタ認知」を高める「問い」の意識を・・・

（例）課題「現在の生徒は自己肯定感が低い」に対する問い

*メタ認知低「どうすれば、自己肯定感を高められるか」

*メタ認知高「自己肯定感が高ければいいのか」

「自己肯定感と合わせて、必要な力は何か」

「生徒は何を望んでいるのだろうか」

「自己肯定感を高めることで、生徒に何を身につけさせたいのか」

4 「良問」（良い問いの条件）

(1) 問い方

① シンプル

② ノージャッジ

③ ポジティブ

④ ハイビジョン

(2) 問いの方向性

① 核心を突く・・・根本は何か？

② 未来志向・・・どんな状態が理想か？

③ 枠を広げる・・・どうすればできるか？

④ 触発する・・・何が一番大事か？

これについて、詳細は次回

◎ 教員は、生徒に「問い」かけるのが仕事。

良い「問い」を、いつ・どのように発するのか。授業での永遠の課題です。